

umibe no mori

2026年5・6月号 VOL.156

海辺のアジサイ

医療法人精華園 情報誌

もり
海辺の杜

ご自由にお持ち帰りください。



赴任のご挨拶



医局
新山 勇太

初めまして、4月より海辺の杜ホスピタルに赴任しました、新山勇太と申します。初めて会った方のうち、約9割の方が私の苗字を「にいやま」または「しんざん」と読まれます。正しくは「しんやま」です。読みにくい苗字で大変申し訳ありませんが、これを機に覚えていただければ幸いです。

出身は長野県です。人口約45000人、長野県内の市で最小の面積を誇る岡谷市という場所に生まれ育ちました。長野県といえば避暑地である軽井沢やウィンタースポーツが有名ですが、私は軽井沢に足を踏み入れたことはなく、スキーも長野県ではしたことがありません。本当に長野県出身なのかと疑われても仕方ありませんが信じてください。高知県へは大学進学を機に来させていただきました。大学受験の際に初めて高知を訪れた際の印象としては、こんなに活気のある商店街があるのかという印象でした。地元の商店街はとても寂れたものであり、商店街=寂れた場所という偏見があったからです。また、高知にて鰹をはじめとした海産物を頂いた際には、内陸県で育った自分にとっても大きな衝撃が走ったことを思い出します。

私が精神科を専攻した理由は、他科と比較して型通りの診療・治療が上手くいくケースが少ないからです。精神科患者の訴える症状は多岐にわたり、診断をはっきりとつけられない患者は少なくありません。型通りにいかないということはそれだけ考えなければいけないことが多くなりますが、どれだけ経験を積んだとしても新鮮な気持ちで診療に臨むことができるということでもあり、とても魅力を感じました。

まだまだ未熟な部分が多く、自らの不勉強さを痛感させられる日々ではありますが、皆様のご助力を頂きながら成長していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



第15回 海辺のメモワール

院長 岡田 和史

思い出の関節技 アキレス腱固め

この連載の最初のテーマは、わが心の英雄アントニオ猪木の思い出でした。今回は久しぶりにプロレス関連のテーマを書きたいと思います。

時は1993年。ちょうど30歳になった私は、大学卒業6年目に入ったところでした。和歌山県立医大を卒業後高知医大神経科精神科に入局し、大学病院で1年目の研修を終え、89年から3年間土佐病院で、精神科病院臨床の基礎を当時の院長・副院長であった須藤浩一郎、俊二郎両先生に教えていただきました。今でも大きな感謝の気持ちでいっぱいです。そして、当時助教授であった井上新平先生の勧めにより、1992年から東京武蔵野病院に勤務、ちょうどバブル崩壊が始まったころでしたが、まだまだ日本経済も元気が残っており、かの有名なディスコ、ジュリアナ東京(1991～1994)でボディコン姿のお姉さんがお立ち台の上でジュリ扇を振り回しながら踊り狂っていた時代でありました。もちろん私も肩パッド入りのダブルのスーツを着て踊っていました、というのは真っ赤な嘘で、そもそもディスコなるところに足を踏み入れたことは生涯一回しかなく、高知の大丸の近くにあったアメリカ広場(でしたっけ?)という店でした。つまり、東京に出てみたものの、当時700床もある巨大病院で、保護室を含めて68床だったと思いますが、今でいう精神科救急病棟のような病棟に配属され、ベテランの先生と2人で月20～25人の入退院を担当し、へとへと毎日でそれどころではなかったのです。

さて話を戻してアキレス腱固めですが、関節技の鬼と言われたレスラー藤原喜明(現在77歳)の得意技。藤原は猪木率いる新日本プロレスの設立直後に23歳で入門、見た目の地味さ故、脚光を浴びることなく前座レスラーに甘んじていましたが、プロレスの神様カール・ゴッチが来日するたびに教えを受け、黙々と関節技を磨き上げ、そして30歳の時にフロリダはタンパのゴッチの元に留学のような形で行くことを許され、半年間ゴッチの自宅に通ってその関節技を自分流にアレンジしつつ身につけて帰国したのです。そして若手のレスラーとスパーリングをくり返し、そこから初代タイガーマスクの佐山聡、前田日明、高田延彦、ライガーこと山田恵一等々、多くの素晴らしいレスラーを育てるとともに、猪木の一連の異種格闘技戦、あの偉大なボクサー、モハメド・アリ、パキスタンの英雄アクラムペールワン、ミュンヘンオリンピック柔道2階級金メダリストのウィリアム・ルスカ等々との戦いの時には、常に猪木のスパーリングパートナー兼用心棒として、付き従っていたのです。

そのような、知る人ぞ知る陰の実力者とされながら、ほとんどテレビに登場することのなかった藤原喜明が一躍脚光を浴びたのが、1984年雪の札幌で長州力を花道で襲撃し血だるまにした事件でした。その長州力も、オリンピックレスラーでありながら地味さから目立った活躍をしていなかったところ、「咬ませ犬発言」で藤波辰爾と対立し、名勝負数え歌と言われた一連の戦いで人気が沸騰していた時でありました。

こうして初めて明るいスポットライトを浴びるようになった藤原は、それまで関節技と言えば腕十字くらいしか知られていなかったところに、地味ながら強烈な関節技を繰り出し、喝さいを浴びるようになったのですが、その時に藤原の代名詞となった技が、腕を固める脇固めと、足関節技であるアキレス腱固めだったのです。

アキレス腱固めとは、相手の足首のあたりを脇に挟むような形で攻める技で、元々はロシアの格闘技サンボに由来しており、相手のアキレス腱を手首近くの骨(橈骨)で垂直に圧迫するように攻めるのですが、実は藤原が得意としていたゴッチ直伝のやり方は、アキレス腱ではなく相手の足首の骨(脛骨の内側、内くるぶしの少し上の斜め後ろ側の部位)をぐりぐりと圧迫する技で、骨と骨:bone to boneと言ったりします。

藤原は、その後「断腸の思いです」という言葉とともに猪木と袂を分かち、新日本プロレスからUWFに参加、紆余曲折を経て1991年に自分の団体である「プロフェッショナルレスリング藤原組」を設立。弱小の団体であり、一般ファン向けのプロレス教室的なイベントを開催したりしたので、早速高校時代からの友人Y君とともに参加を申し込み、場所は当時足立区の花畑というところにあった道場でした。

藤原組長がリング上で、若手の練習生を相手にスパーリングを行いながら基礎的な関節技について解説してくれたのですが、そこで「何か質問ないか?」と言ったのです。私はこれはチャンスだ!!と思い、さっと手を挙げてゴッチ式とサンボ式のアキレス腱固めの違いを質問したのです。本当は知っていたのですが…。すると予想通り、「おう、上がって来いよ」とリング上に呼び入れてくれて、解説をしつつ、私の右足首をさっと取って、立ったままで軽く技をかけてくれたのです。藤原組長は本当に軽く絞った感じでしたが、一瞬で激痛が走るとともに、当時でも70数キロあった私の身体は半分ほどマットから浮いてしまったのです。レスラーの強烈なパワーを体感するとともに、藤原組長に直接技をかけてもらった喜びで、内心小躍りしたことでした。

藤原喜明のアキレス腱固めを受けたことがある精神科医はおそらく日本で私だけだろうと、今でもひそかに自慢に思っている、思い出の関節技のお話でした。



藤原組長と30歳の頃の私

第99回 日本産業衛生学会に参加して

健康推進室 山本 千央

今回第99回日本産業衛生学会に参加した。

ストレスチェックに関する講演から

ストレスチェックについては2028年度より50人未満の事業所もストレスチェックが義務化される。厚生労働省が進めている施策とはいえ、全国的に課題が多い状況である。小規模事業場では顔がみえる関係であるが故に、受検者が「上司にみられているような感じがする」「悪い結果には持っていきたくない」といった心理が働き、高ストレスの状態であっても問題がないように回答してしまう実態がある。そのため、小規模事業場の受検者がストレスチェックを受ける際には、まず事業場との信頼関係構築に努め、不安をあたえないための事前説明を行う、また面接を希望しやすい環境や仕組みづくりについて、事業場の方々と共に検討していくことが大切である。そして、一人ひとりが安心してストレスチェックの受検ができるように支援することが重要であると学ぶことができた。

～認知症と共に働く時代～の講演から

認知症に対する看護については研修や臨床現場から学んできたが、認知症の方と共に働くということについてはこれまで深く意識することがなかった。日本では高齢化に伴い、認知症の方々は増加する見込みである。そのため、今後は認知症の方々が社会で安心して過ごしていけるような支援が必要であり、その一つに就労支援がある。認知症の方々に対する就労支援においては、「できないこと」ではなく「できること」に焦点をあてる、いわゆる「持てる力」や「強み」を把握し、残された力や尊敬を奪わない支援をすることが必要であると学ぶことができた。



海辺のコラム

umibe no column

「でなければ駄目」から「でもいい」へ

清水 峻 医局長

精神科医師として診療を続ける中で、「この先生でなければ駄目」と「この先生でもいい」は相反する関係だと思っていました。けれど今では、この二つは治療の中で緩やかに行き来する段階なのだと感じています。治療の初めは、新芽に水が注がれる時期です。外からの支えが、揺れやすい心の輪郭をそとと形づくりまします。やがて芽が根を張り、自ら水の在りかを探るように、心にも自然と伸びていく向きが生まれます。「この先生でも」「いい」という感覚は、一筋だった根が地中で少しずつ広がっていく姿に似ています。治療者はその芽の成長を見守る伴走者のような存在です。距離が近づくことも離れることもあり、時に枝葉の陰へ退き、気配だけを残して離れていくこともあります。「この先生でもいい」と感じる瞬間は、急がずとも、いつかそとと訪れます。その時、これから歩む道に宿る彩の豊かさに気付くでしょう。



令和8年1月6日
高知新聞(朝刊)掲載

不安障害について

笠井 秀夫 副院長

不安障害は、危険を察知する警報装置であるはずの「不安」が過剰に働きすぎている状態をいい、時に、動機・息苦しさ・めまい・胃腸障害など体の症状を伴って日常を大きく揺さぶります。発作のように強烈になることも、じわじわ続くこともあります。大切なのは「心の持ちようが悪い」のではなく、脳と体の反応が学習されて固定化した状態だと捉えることです。怖さを避け続けるほど、脳は「やはり危険だ」と学び、行動範囲が狭まります。睡眠をしっかりと取り、カフェインや情報の浴び過ぎを控え、呼吸法を意識するだけでもかなり改善が期待できます。治療は、不安や怖さからの回避を減らし、少しずつ不安に慣れていくことを目指す認知行動療法と、過緊張を和らげる薬物療法を組み合わせます。症状が数週間続き生活に支障が出るなら、早めの受診が近道です。適切な治療で多くは改善します。回復は十分可能です。自分を責めないでください。

令和8年2月2日
高知新聞(朝刊)掲載



3・4月は季節行事が盛りだくさん!

精神科デイケア「わくわく」で開催しているプログラムを紹介します



vol.117

坂本龍馬記念館に行こう!

片岡

3月9日に坂本龍馬記念館に行き、「郷土坂本家の秘蔵展」を鑑賞しました。良い天気だったので展望台からの桂浜の眺めが雄大で最高でした!また、参加したメンバーさんも言われていたのですが、秘蔵展では龍馬の愛刀である脇差を見ることができ感激しました。今回も数名の方に感想をうかがっています。



さをり教室

市原

毎年恒例、干支小物づくり!今年は午年ですね。立派な鬘の午が揃いました。同じ型紙で作っていますがそれぞれ個性があつてとってもキュートな仕上がります。以外と細かい部分が多く完成まで半年(もうちよっとな)ほどかかりました。よい一年でありますように!



ほっとはあと〜ポッチャ大会〜

今橋

3月12日(木)障害者スポーツセンターにて「ほっとはあと」主催のポッチャ大会が開催されました。毎年多くの施設が参加されていますが、今年も白熱した試合が繰り広げられました。今回の大会では「デイケアわくわく」から出場した「黒潮チーム」が見事優勝を果たしたので、出場されたメンバーさんより感想をご紹介します。当日は少し寒かったですが、ポッチャには集中して取り組むことができました。他チームの皆さんとも楽しく試合ができ、良い思い出となりました。



院外レク〜お花見(宮の前公園)〜

高橋

今年の高知の開花宣言は3月23日:院外レクは4月6日: ああ今年はやさかしく?他に桜が残っている良い場所があるんじゃない?当日の天気はどうなるかしら?レク2日前に春の風:桜が散ってしまうんじゃない?などなど不安要素はありましたが当日、越知町の宮の前公園へお花見弁当持参で行ってまいりました!桜は散りかけでしたが、それがまた素敵で風が吹くたびに舞う桜の花びらの綺麗なことも風情がありました。参加メンバーから「満開でよかった!美しい桜を見るのができてよかった。幸せでした。」「広々とした宮の前公園の桜。大スベクタクルでした。」「ひらひらと散っている桜の下を歩いてよかった。お弁当も最高!」「行きも帰りも道中の桜がきれいでした。」「宮の前公園に行ったことがなかったから新鮮さがあった。普段と違うお花見ができました。」「とても綺麗で桜も残っていてくれてよかった。最後に帰りの坂で風に見てくれた桜が印象的でした。」「空気の澄んだ環境の中でお弁当を食べると、心が落ち着くというか和みました。」「久しぶりの院外レクで綺麗な桜とみんなと美味しいお弁当を食べた。」「久しぶりの院外レクで綺麗な桜と花見のリベンジは果たせたのではないのでしょうか?!また、花見を盛り上げてくださったサンシャインヴィアンのお弁当は本当に美味しかったです!ありがとうございます!」



新しいプログラム紹介

片岡

軽運動でYouTubeシリーズを拡充しました。ストレッチやご当地体操を加え、YouTube動画を見ながらメンバーさんと一緒に体を動かしています。動画があるとトレーナーさんの動作だけではなく文字もあるため、どのような動作をするかわかりやすいことが利点だと感じています。嚥下体操、有酸素運動さらにハードな有酸素運動(これは軽運動ではないような...)など軽運動は充実してきたかなと思います。ぜひ、一緒に体を動かして気分をリフレッシュしましょう!

院外レク〜牧野植物園〜

上甲

3月24日の午後、穏やかな小春日和の日に院外レクで牧野植物園に行きました。平日にもかかわらず駐車場は満車に近い状態で県外ナンバーも多く見られました。今回はポタニカルアート展に絞って鑑賞しました。植物を綿密に観察し科学的な側面と、美しさを兼ねそろえたポタニカルアートを堪能することができました。帰りには新しくできたふむふむ広場により、高橋NSのわかりやすい解説を聞きながら植物にふれたり、香りを楽しむこともできました。参加者からは、「多肉植物や毛が生えた葉っぱを触って気持ちよかった!」「いろんな植物がみれて、五台山からの景色をみれてよかったです!」「30年前に来たときよりも植物や花が多くなっていた!」等、感想を頂きました。本日は1日かけてゆっくり過ごしたい場所ですね。



ピア活動〜カレーを作ろう〜

今橋

4月より、第8クールのピア活動がスタートしました。第1回目は、西内さん企画による「カレー作り」を行いました。当日に向けて、企画者と一緒に材料やルウの種類、役割分担などの打ち合わせを行い、デイケア利用者の皆さんにも準備・調理・片付けなどをお手伝いいただきました。私が個人的に気になっていたカレー(「ZEPPELIN」は少しスパイシー?であった事から人によっては「やや辛口」との意見もありましたが、多くの方より「美味しかった!!」との感想をいただきました。企画者からも「みんなで頑張りました!美味しくできて良かったです」と大変満足していたいた企画でした。



／ え～本当に(笑) ／

役職定年を迎えました

1病棟 今村 牧子



この度、めでたく(?)主任の役職定年を迎える事になりました。週間業務の呪縛や管理業務のプレッシャーから解放され今は翼が生えたような身軽な気分です。

振り返ると怒涛の17年でしたが、週間業務作成のパズルに夜な夜な悶絶、スタッフの皆さんから「主任~ここ...私の名前がないんですけど、帰っても...」と優しい指摘に何度(ごめん。帰ったらいかん)と言った事でしょう。個性が強くて最高に温かい師長を始め、スタッフやユーザーさんに恵まれ、これ以上ない幸せな主任生活を送りました。私の拙い管理に最後まで付き合ってください感謝の言葉しかありません。

役職はなくなりますが、看護師として後2年キャリアは続きます。これからは若手の皆さんの邪魔にならないよう配慮しつつ現場を支える「最強のフォロワー」を目指して(?出来るか心配)、楽しくお仕事をさせていただきます。

これからは、「主任さんではなく、今村さ~ん。」とお呼びください。”主任“と言った瞬間に右手を出し「10円」と言うかもしれませんご注意を(笑)



NEW FACE ニューフェース



- ①所属部署：職業
- ②どうしてこの仕事を選んだのですか
- ③今後の抱負・自己紹介・コメントその他

ふじ みかこ
藤 美佳子

- ①医局:医師
- ②医学に興味があったから。
- ③至らない点もあると思いますが、よろしくお願ひします。

しんやま ゆうた
新山 勇太

- ①医局:医師
- ②父が接骨院を営んでおり、自分も怪我をした際に父に治療してもらってました。人を治療するという立場に自分もなりたいと思い、医師を志しました。
- ③海辺の杜ホスピタルに赴任してから2月が経ち、少しずつこちらの環境に慣れてきました。しかしまだまだ分からないことも多く、皆さんにご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、よろしくお願ひします。

いけ りょうせい
池 亮星

- ①5病棟:ナースアシスタント
- ②前から人と関わる事が好きで別の施設で介護職として働いており、その経験を活かせるこの職種に就きました。
- ③まだまだ新米でご迷惑をおかけする事もあると思いますが頑張りたいと思っていますのでよろしくお願ひします。ストレス無く働けていて毎日がとても楽しいです。

やざま まさあき
矢間 雅昭

- ①2病棟:ナースアシスタント
- ②鉄工所で勤めていたのですが、安定しない給料を心配していた看護師の母が、給料の安定している仕事として勧めがあり、医療福祉(介護)に就きました。
- ③担当業務におけるケアレスミスや業務抜かりをゼロにすることを目標にします。準備段階では指差し確認、マニュアル通りに実施する。ユーザー様に対しても「大丈夫だろう」にせずナース等に確認をしてユーザー様の安心安全に努めます。

やまもと あみさ
山本 安美彩

- ①相談室:精神保健福祉士
- ②人の心を理解したいという思いと小さい頃からの人を笑顔にする仕事に就きたいという気持ちから学び始めたのがきっかけです。
- ③日々努力を忘れずユーザーさん・職員の皆さんに教えていただきながら業務をしっかりとこなせるように成長していきたいと思っています!まだ分からないことも多くこれからもご迷惑をおかけしますがどうぞよろしくお願ひします!

おおいだ りょうま
大井田 諒真

- ①管理部:清掃係
- ②高校の時にいくつかの実習に行きましたが清掃が自分に一番合っていると思ったので選びました。
- ③職員の方々ともっとコミュニケーションを取れるよう努力をし、もっと今の仕事に馴染めるように頑張りたいです。自分の強みは集中して清掃に取り組むことです。実習で学んだテクニックを活かしながら頑張っていきたいです。

うえた りくと
植田 陸人

- ①管理部:施設係
- ②前から、人の生活を支えている病院関係の仕事に就いてみたいと思っていて、今回父親の紹介で、やってみようと思いました。
- ③いろいろな種類の仕事があるので、早く仕事に慣れて、自分一人でやれるようになればと思っています。また、資格の勉強をして、できることの幅を増やしていきたいです。病院を利用する人が、快適に利用できるように頑張っています。よろしくお願ひします。



NHK のど自慢四万十大会に

出場しました



2026年4月19日 四万十市しまんとびあにて、兄弟デュオである狩人の「あずさ2号」を元海辺の杜看護師である弟と熱唱しました。今から盛り上がるというところで鐘2つというなんとも残念な結果となりましたが、素晴らしい経験となりました。

事の始まりは、弟から「のど自慢が四万十であるみたいやけど出んかえ。おかがゲストの真田ナオキのファンで会いたいらしいわ。」女性ユーザーさんの「看護部長さん。四万十でのど自慢があるそうですよ。海辺の狩人として出ませんか。」男性ユーザーさんの「キャラバンバンにはもう出んがかえ。またテレビで歌いゆとこ見たいけんど。」のほぼ同日に起こった奇跡の三点セットでした。

精華祭の出し物として、元海辺の杜看護師である父親のワインレッドとモスグリーンのスーツを兄弟で着てあずさ2号を歌ったり、キャラバンバンに出場した際にはテレビ放送をユーザーさんと一緒に見たりした楽しい思い出もよみがえり、これから先のお祭り完全復活に向けて景気付けにのど自慢にも出てやろうかと一瞬考えましたが、全国生放送というプレッシャーにはとても耐えられないと思い、出場はしないことに決めていました。

しかし、予選会申し込み期限の最終日にたまたま弟と母に会い、酒に酔っていたことも影響してか「親孝行しちやるか。」とかっこよく申し込みをすることになり、あれよあれよという間に予選会出場の案内が届き、生放送前日の200名の予選会を経て20名の本選出場が決定し、不眠と緊張で脇汗と

尿意と便意が止まらないまま当日の生放送を迎えました。

スタッフさんの「大丈夫。生放送で漏らした人はいないから。」という自分にとってはこの上なく余計な一言がありながらもなんとか無事に終えることができました。

たった二日間ではありましたが、NHKのど自慢の歴史を知ることができ、スタッフさんのプロフェッショナルな仕事を目の当たりにし、短い期間でも20名の参加者が仲間になれるノウハウのようなものまで体験できたことはとてもいい刺激になりました。何より司会の塚原愛アナウンサー、ゲストの長山洋子さん、真田ナオキさんは本当に素敵でした。

ももとは人前に出ることも苦手でお腹も弱く、いろいろと挑戦してもうまいかないことも多いのですが「しんどさや辛さのある人間が頑張ることは、健康な人間が頑張ることよりずっと意味がある。」と若い頃から自分に言い聞かせて行動していることが結果的にいい思い出につながっているんだなとつくづく思ったことでした。

今回NHKのど自慢に出場したことで、家族、職員、ユーザーさん、知人が喜んでくれたり笑顔を見れたことが何よりうれしかったです。

これからも「なんで出たがやろ。なんでやったがやろ。」と言いながらもいろいろなことに挑戦して楽しみたいと思います。

まずは苦手な乗り物ではありますが、8時ちょうどのあずさ2号でどこかへ旅立ちたいと思います。

海辺の杜 もり
ホスピタル

〒781-0270 高知市長浜251
TEL 088-841-2288 FAX 088-841-2280
E-MAIL info@umibeno-mori.com
URL https://www.umibeno-mori.jp/
■理事長 町田照代 ■院長 岡田和史

診療科目	診療時間	受付時間
●精神科 ●心療内科	月～金 AM9:00～PM12:15 PM1:15～PM 4:45 土 AM9:00～正午	月～金 AM8:30～PM 4:30 土 AM8:30～AM11:45

初診予約専用ダイヤル
TEL 088-841-2409

デイケア	相談室
●精神科デイケア 「わくわく」 TEL 088-841-2081 ●重度認知症デイケア 「ほのか」 TEL 088-841-0372	TEL 088-841-2016 FAX 088-841-2286

棧橋みどり
クリニック

〒780-8015 高知市百石町2-8-8
TEL 088-878-9310 FAX 088-833-3602
E-MAIL info@san-mido-clinic.com
URL http://san-mido-clinic.com/
■理事長 町田照代 ■所長 山崎浩

診療科目	診療時間
●心療内科 ●精神科	月・火・木・金・土 AM9:30～PM12:30 PM2:00～PM 6:00* (※金曜日 PM5:00 土曜日 PM4:00) 水 AM9:30～PM12:30

受付時間	休診日
月・火・木・金 AM9:30～PM12:00 PM1:30～PM 5:30 水・土 AM9:30～PM12:00	日・祝日 水曜午後 隔週土曜

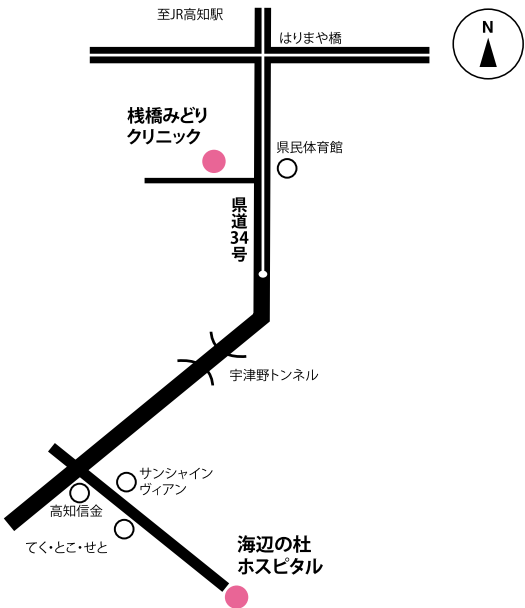
関連施設

訪問看護ステーション
うみべ
〒780-8015
高知市百石町2-8-8
TEL/FAX 088-833-1177



診療実績

2026.3/1～3/31 (のべ)	2026.4/1～4/30 (のべ)
海辺の杜ホスピタル ・外来総数 2,441人 ・うち新患外来総数 22人 ・入院総数 31人 ・うち新患入院総数 9人 ・退院数 32人 ・精神科デイ利用者数 493人 ・ショートケア利用者数 80人 ・重度認知症デイ利用者数 237人	海辺の杜ホスピタル ・外来総数 2,452人 ・うち新患外来総数 20人 ・入院総数 18人 ・うち新患入院総数 3人 ・退院数 17人 ・精神科デイ利用者数 467人 ・ショートケア利用者数 75人 ・重度認知症デイ利用者数 242人
棧橋みどりクリニック ・外来総数 546人 ・新患外来総数 40人	棧橋みどりクリニック ・外来総数 502人 ・新患外来総数 34人
訪問看護ステーションうみべ ・訪問件数 458件	訪問看護ステーションうみべ ・訪問件数 446件



お寄せ下さい

院内誌に関する、ご意見・ご感想、ご要望、投稿記事等、どんな事でも構いません。お気づきの点がありましたら、思いのままに下記までご投稿下さい。

提出先: Myweb Mail → **新規作成** → **アドレス帳** → カスタムグループ → 院内誌編集係 → **メール作成** まで。



編集後記 (編集長：橋田)

ネットショッピングに泣く。
奮発して少しだけ高めの化粧ポーチと財布をネットで購入。海外からの到着を今か今かと待ってやっと手元に(嬉)。ワクワク箱をあけてみる!
嫌な予感、、、袋が小さくない?と思いつつ化粧ポーチを手にとると、小銭入れ程度の小っちゃなポーチ。化粧道具はどうみても入らない(泣)。仕方ない!次に財布を手にとると、お札を入れるところのない財布。カードと小銭入れのみで構成されている(泣)。いくらキャッシュレス時代でもお札は絶対でしょ!とイライラしかない。見出しにちゃんと書いて下さい!「小さいです」とか「お札は入りません」とか。また一瞬で気分どん底。仕方ない、また今日も働きます!

今月の表紙

タイトルは「海辺のアジサイ」です。写真のアジサイは当院のデイケアわくわくのユーザー(利用者)の方々がお世話をしている菜園の脇に生えています。綺麗な花が咲いたら良いねと手入れをして育てています。その花言葉の中に「和気あいあい」があります。デイケアの名称とすこし似てますね。世界中のみんなが、仲良く和気あいあいで、わくわくの生活をおくれたらいいですね。

